

毎日(2006/07/01)

京都大の川上養一助教授(光電子材料)と日亜化学工業(本社・徳島県阿南市)などのグループは、高い発光効率を持つ緑色LED(発光ダイオード)を開発した。窒化ガリウムを基板にしたもの

京大などのグループ

で、発光効率が悪かった緑色の光でも青と同レベルの効率が得られた。応用物理学会などが発行する英文論文誌(電子版)に30日、掲載された。

窒化ガリウム結晶を用いたLED

「明るい」緑色LED開発

Dは、紫や青では発光効率が40〜50%程度だが、緑だと5〜20%程度に落ちる。このため青、赤、緑のLEDをバックライトにした液晶ディスプレイでは、緑LEDの数を増やさなければならなかった。

高い発光効率

日亜化学工業の試作品の出力は、同社で以前、青色LEDを開発した中村修二・カリフォルニア大サンタバーバラ校教授らのグループが開発した緑LEDより約100倍強いという。【中野彩子】